



テーマが散漫

交流目的が不明。(40代後半女性)

目的毎に交流会を行った方が良い。
(70代後半男性)

先にテーマを決めて会場を割り振った如何?、あまりにも聞きたい事と話す人の差がありすぎですネ。

今回の交流会では、共通の課題を抱えた方同士が同じテーブルについての方が、話し合いが深まると考えて、開設年度に近い「元気応援くらぶ」の方たちでディスカッショングループを作っていたくよう配慮しました。しかし、年度に近い「くらぶ」だからといって、解決しなければなら

ない課題が必ずしも同じである訳でなく、議論が噛み合わない問題もあったのではないかと思います。



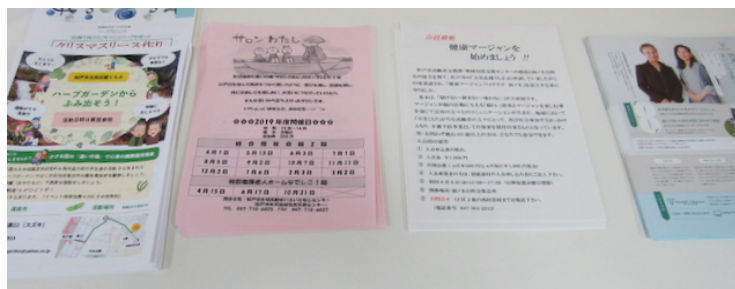
時間が足りない

結論が出るまで時間が欲しい。(70代後半女性)

ワークショップ形式のディスカッションに参加すると、議論が尽くされないうちに終わってしまうというスッキリしない感覚を味わうことがあります。ワークショップ

形式は限られた時間の中で何らかの結論を得るのには優れた方法ですが、このような感想をもたれた方は他にもたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか? 次回以降の交流会では、話し合いの時間、形式についても検討していこうと考えています。

交流会の風景から



上段左: 講演中の武藤先生 上段右: 参加した「通いの場」等の広報チラシ

下段左: 松戸PJ協力事業者および団体による「通いの場」で役立つコンテンツの紹介風景

下段右: 当日参加された特定非営利法人「アイギス」さんへ送られた感謝状と対象となった交通安全のためのグッズ

編集後記

ニューズレター今号は、3月8日に開催予定の「松戸プロジェクト」成果報告会の際、お集まりの皆さんにお配りする予定で編集を進めていました。残念なことに、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、報告会は中止になってしまいました。このニューズレターがお手元に届く頃には、この騒ぎも終息することを祈っています。

今号は、久しぶりの発行で4ページになりました。全体に文字が多く、退屈される方もおられたかと思いますが、交流会で得た意見、感想やアイデアのまとめとなって、今後の活動に活かされればと思います。

発行責任者: 「松戸プロジェクト」パートナー代表、松戸市の地域活動を推進する会代表 菊谷則行
編集責任者: 「松戸プロジェクト」パートナー、松戸市の地域活動を推進する会会員 小川吉夫